「吾輩はカレーである」教師用マニュアル　シン経済学習（中学版）準拠

授業の手順／学びの解説／クイズの解答／振り返りの問いの解答例

Ⅰ　この教材セットの構成と使い方

冊子	対象	内容
① 読本	生徒	物語本文のみ（序章・第 1 講～第 10 講・終章）。二段組み。経済用語の副題と解説は載せていない。
② 振り返りシート	生徒	各講 A4 判 1 枚・全 11 枚。読み取りクイズ、振り返りの問い（ヒント付き 3 問）、経済クイズ、感想。
③ 教師用マニュアル	教師	授業の手順、各講の学びの解説、クイズの解答、振り返りの問いの解答例、あとがき（舞台裏）。

・経済の概念や理論をいきなり表に出さず、日常感覚に近いところから経済を学ぶことをねらいとしています。そのため読本には「分業」「需要と供給」といった副題を載せていません。

・ケンジは効率と満腹を、アカリはバランスと公平を重んじます。二人の会話を効率と公平の二つの視点として読むと、各講の論点が整理しやすくなります。

・ご飯粒は答えを言い切らず、はぐらかします。その余白が生徒への問いになっています。教師も答えを急がないようにしてください。

・シート 2 の記入枠には、書き出しや着眼点を示すヒントを入れてあります。書きあぐねる生徒にはまずヒントの空欄や書き出しを埋めさせるとよいでしょう。

・読本では、せりふを書体と色で区別しています。ケンジ・アカリ・先生など人間どうしの会話は青い文字の教科書体、吾輩とご飯粒の会話は茶色の文字（もとの書体）です。吾輩とご飯粒の声は人間には聞こえていない、という設定を最初に確認しておくと、役割読みでも場面の切り替わりで迷いにくくなります。

・改訂版の読本では、第 4 講・第 5 講・第 6 講・第 8 講の冒頭に、その講の問いが生まれるきっかけの場面を加えました。いずれも前の講の出来事を受けているので、導入では前講のシートを見返させるとつながりが見えやすくなります。また、第 3 講で予告した「負ける側の話」を第 8 講の終わりで回収しています。

・シート 3 の経済クイズは、物語の内容を経済の用語に結びつけるためのものです。用語を後から与えたい場合は、「学びの解説」の後に取り組ませてください。

・序章には独立したシートを設けず、第 1 講のシートに含めました。第 10 講と終章は、原稿では振り返りの問いが共通でしたが、シートは別にしました（追加した問いには「追加」と表示）。

各講と経済概念の対応

講	タイトル	関連する経済概念	講	タイトル	関連する経済概念
序章	吾輩はカレーである	（導入）	第 6 講	吾輩を作る人が足りないって？	労働市場と人手不足
第 1 講	吾輩のうしろにひかえし者はだれだ	分業とサプライチェーン	第 7 講	吾輩は遠くになんか行きたくないぞ	限られた資源の配分と社会保障
第 2 講	吾輩に値段を付けるだって？	需要と供給・市場価格	第 8 講	吾輩は会社を創るぞ！	株式会社と起業
第 3 講	ライバル揚げパン、なにするものぞ	競争とイノベーション	第 9 講	金がなければ何も出来ない	銀行と金融の仕組み
第 4 講	なに？道路が有料だって？	公共財とフリーライダー	第 10 講	吾輩は世界のカレーである	国際経済へ
第 5 講	みんなで出したお金、どう使う？	税とその使いみち	終章	吾輩は少し賢くなったカレーである	経済とは、何だったのか

シン経済教育の「6 つの概念」「4 つの基盤」との対応

・この読本は、経済教育ネットワークの「社会を支える４つの基盤」（シン経済教育）の中学版を下敷きにしています。同プログラムは、経済を「私たちの暮らしを、みんなで支え合う社会の仕組み」ととらえ、具体的な場面から入って、概念は後から登場させます。

・**【6 つの概念】希少性 → 機会費用 → 分業と交換 → つながり → 信頼 → 効率と公正：**限りがある（希少性）から選ばなければならず、選べば何かをあきらめることになります（機会費用）。一人で全部やるより役割を分けて交換した方がうまくいきます（分業と交換）。そうして見知らぬ人どうしが結びつき（つながり）、それが続くには信頼が要ります。それでも残る不公正にどう向き合うかが、効率と公正の問題です。

・**【4 つの基盤】A 市場・B インフラ・C 生活・D 制度：**A 市場＝生産・交換・価格・競争・雇用・消費。B インフラ＝物流・決済・通信・交通・エネルギー。C 生活＝安全・健康・教育・災害対応・社会保障。D 制度＝契約・法・税・財政。四つはつながっていて、どれかが止まるとほかにも影響が出ます。

・各講の手引きに「■ シン経済教育との対応」の欄を設け、その講の物語に実際に出てくる場面にしぼって、関わる概念と基盤を示しました。すべての講に六つ・四つがそろっているわけではありません。物語にない要素は「（補足）」として、教師が補う場合の手がかりを書きました。

・プログラムの用語は「効率と公正」です。読本ではアカリの言葉づかいに合わせて「公平」と書いていますが、この欄では「公正」にそろえました。

・この欄は教師のための見取り図です。生徒に六つの用語を覚えさせるためのものではありません。

講	主に関わる概念	主に関わる基盤
序章・第 1 講	分業と交換、つながり	A 市場、B インフラ
第 2 講	希少性、機会費用	A 市場
第 3 講	希少性、機会費用、効率と公正（入口）	A 市場
第 4 講	つながり、信頼、効率と公正	B インフラ、C 生活、D 制度
第 5 講	希少性、機会費用、効率と公正	D 制度（B・C を支える）
第 6 講	分業と交換、つながり、効率と公正	A 市場、C 生活
第 7 講	希少性、機会費用、効率と公正、つながり	C 生活、D 制度
第 8 講	分業と交換、信頼、効率と公正、つながり	A 市場、D 制度、C 生活
第 9 講	信頼、つながり、機会費用	A 市場、B インフラ、D 制度
第 10 講	分業と交換、つながり	A 市場、C 生活
終章	六つすべて（まとめ）	A～D すべて

Ⅱ　授業の手順（各講共通）

A　1 時間（50 分）で 1 講を扱う場合

段階	時間	学習活動	教師の手だて
導入	5 分	導入の発問に答える。	各講の「導入の発問」を使う。前講のシートから良い気づきを一つ紹介する。
読む	10 分	読本の該当講を読む。	範読、または役割読み（吾輩・ご飯粒・ケンジ・アカリ・地の文）。黙読でもよい。
確かめる	5 分	シート１ 読み取りクイズ。	その場で答え合わせをし、全員が筋をつかんだことを確認する。
考える	13 分	シート２ 振り返りの問い。	問 1・問 2 は本文に戻って読み取る問い。隣どうしで確認させる。問 3 は自分の考えを書く問い。
交流する	7 分	問 3 を発表・交流する。	異なる考えを意図的に取り上げる。ケンジ型（効率）・アカリ型（公平）に整理すると見えやすい。
まとめ	7 分	解説を聞き、シート３ 経済クイズ。	「学びの解説」を読み上げるか要点を話し、経済用語を示す。クイズで用語を確かめる。
振り返り	3 分	シート４を記入。	回収し、次時の導入に生かす。

B　短時間（15〜20 分）で扱う場合　読本を事前に読ませ（朝読書・家庭学習）、シート１と問 1・問 2 まで済ませておきます。授業では答え合わせ、問 3 の交流、学びの解説と経済クイズに絞ります。

C　自習課題・長期休業中の課題とする場合　読本とシートをまとめて配り、数講分を課題とします。提出後、問 3 と感想欄から代表的なものを紹介し、学びの解説で補います。

D　留意点と評価の目安

・大人数の学級では、交流は隣どうしのペアを基本とし、問 3 は挙手による集計と数名の指名で全体に広げます。

・解答例はあくまで一例です。自由記述の問いは、結論の当否ではなく、物語の場面や自分の経験にもとづいた理由が書けているかを見ます。

・「学びの解説」は読者（生徒）に語りかける文体で書かれています。そのまま読み聞かせてもよいし、印刷して配ってもかまいません。

・評価の目安：シート１と問 1・問 2＝知識・技能（内容を正確に読み取っている）／問 3＝思考・判断・表現（理由をつけて自分の考えを書いている）／シート３③・４＝主体的に学習に取り組む態度（身の回りの経済に引きつけて考えようとしている）。

Ⅲ　各講の手引き

序章・第 1 講　吾輩のうしろにひかえし者はだれだ ―分業とサプライチェーン―

ねらい　一皿のカレーの背後に、互いに顔も知らない多数の人の分業とつながりがあることに気づく。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問「今日の給食（昼食）が自分の前に届くまでに、何人くらいの人が関わったと思う？」と人数を予想させます。

・序章と第 1 講を続けて読みます（序章は登場人物の紹介として扱います）。

・問い 1 で書き出した「うしろの人」を黒板に集め、畑→運送→調理→教室の流れに並べ直します。

・問い 3 は「運転手が一人いなくなったら」など、具体的な一人に絞って考えさせると書きやすくなります。

・「分業」「サプライチェーン」の語は、生徒の言葉が出そろってから最後に与えます。

発展課題（任意）　最近値上がりしたものを一つ選び、「つながり」のどこで何が起きたのかを調べる。

■ 学びの解説

第 1 講では、「カレーは一人ではできない」という話をしました。経済学では、分業やサプライチェーンといった用語がこれに関連します。アメリカの経済学者 M・フリードマンは、カレーではなく一本の鉛筆から、同じ話を作っています。

最近の物価高の原因が、こうした「つながり」のどこにあるのかを考えてみると、物価高を嘆いているだけでなく、その要因が分かるだけでも、世の中の仕組みを知る第一歩となるかもしれません。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】分業と交換：**農家、運転手、調理員さんなどが役割を分け合って、一皿のカレーができています。吾輩が「犯人」と呼んだ人たちは、ご飯粒の言うとおり「協力者」です。

・**【概念】つながり：**だれも手柄を主張せず、挨拶を交わしたこともないのに、一人でも欠ければカレーは届きません。顔も知らない人どうしが結びついていることに、吾輩は驚いています。

・**【基盤】A 市場：**材料の生産と売り買い。

・**【基盤】B インフラ：**トラック、道路、信号。吾輩が「見えない誰か」として数えた、道を作った人や信号を管理する人がここに入ります。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（ご飯粒）　② イ（自分をこしらえた「犯人」）　③ 牛乳　／　経済クイズ　① イ（分業）　② イ→ウ→ア　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　吾輩（カレー）は、自分の「うしろ」にどんな人やモノがいることに気づいただろうか。物語の中から、できるだけ多く書き出してみよう。

【解答例】じゃがいもや玉ねぎを育てた農家の人、材料を運ぶトラックの運転手、道を作った人、信号を管理する人、給食室の調理員さんなど。カレー一皿ができるまでに、名前も知らない大勢の人が関わっている。

問 2　ご飯粒は「支えられているのと、偉いのとは、たぶん別の話だと思うよ」と言った。この言葉は、どういうことを伝えようとしているのだろうか。

【解答例】自分の力だけでここまで来たように思っても、実際には多くの人に支えられている。支えられていることと、自分が偉いということは違う、という戒めの言葉だと考えられる。

問 3「吾輩の後ろにひかえし者」が一人でも欠けたら、カレーは教室に届いていただろうか。分業やつながりという視点から考えてみよう。

【解答例】例えば材料を運ぶ運転手がいなければ食材が学校に届かず、調理員さんがいなければ調理されない。分業でつながっているからこそ成り立っており、どこか一つが欠けてもカレーは吾輩として存在できなかったかもしれない。

第 2 講　吾輩に値段を付けるだって？　―需要と供給・市場価格―

ねらい　価格は誰かが一方的に決めるのではなく、買い手と売り手の無数の選択の結果として決まることをつかむ。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「人気のパンが売り切れた。店はなぜ、値上げも増産もすぐにはしないのだろう？」

・問い 1 は「欲しい人が多い」「店にある数が少ない」の二方向から説明させます。

・「払えるお金との綱引き」は買い手側の事情を指す表現です。アカリの「作るのにもお金がかかる」という発言（売り手側の事情）と合わせて、需要と供給の両面に整理するとよいでしょう。

・問い 2 では、給食のカレーにも値段が「ない」のではなく「見えない」だけであること（給食費）に触れます。

・需要曲線・供給曲線の作図は、ここでは扱わなくてかまいません。

発展課題（任意）　物価高のニュースを一つ取り上げ、「買う側の事情」か「売る側の事情」かを分類する。

■ 学びの解説

第 2 講では、「カレーの値段はどう決まる」という話をしました。経済学では、需要と供給、市場価格といった用語と関連する話です。受験勉強をしている諸君にとっては需要曲線・供給曲線が思い浮かぶかもしれませんが、価格が決まる背景やその影響を理解する方が、経済の本質を理解することにつながります。

最近の物価高の原因が、みんなが買うからなのか、それとも売る側の事情によるものなのかを考えてみると、政府の物価対策の評価にまで話を広げることができます。ただし、そこまで考えるにはもっと学ぶ必要があるので、暑いさなかに無理をする必要はありません。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】希少性：**新作パンは、欲しい人の数に対して店にある数が足りませんでした。「人気ならもっと作ればいい」「作るのにもお金がかかる」というやりとりが、限りがあることを示しています。

・**【概念】機会費用：**「百円で何を買うか、毎回考えてる」というケンジの言葉。ジュースを選べばお菓子はあきらめることになります。吾輩はここから、値段を「選ぶか、他のものを選ぶか」という判断の積み重ねとして見直しています。

・**【基盤】A 市場：**価格と消費。この講はほぼ市場の話です。

・【基盤】（補足）給食のカレーに値札がないのは、市場の外で、制度（給食費と公費）によって届けられているからです。この点は第 4 講・第 5 講につながります。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（自分に値段がついていないから）　② 払えるお金　③ ア（新作パン）　／　経済クイズ　① ウ（上がる）　② イ（供給）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　ご飯粒は、値段は「欲しいと思う気持ちと、払えるお金の綱引き」で決まると言った。この考え方を、コンビニの新作パンが売り切れた話にあてはめて説明しよう。

【解答例】新作パンを欲しいと思う人（需要）が、店にある数（供給）より多かったために売り切れた。人気が高いほど「欲しい」という気持ちが強くなり、綱引きに勝ちやすくなる。

問 2　「吾輩がスーパーで売られていたら、いくらだ」という吾輩の問いに、ご飯粒は「崩れるタイプのカレーだから売り物にはならない」と答えた。値段がつくために、商品にはどんな条件が必要だろうか。

【解答例】運んだり保存したりできる形であること、誰かが買いたいと思うものであることなど、実際に売り買いできる状態であることが必要。給食のカレーのように市場に出回らないものには、そもそも値段がつきにくい。

問 3 「値段」というものが、単なる数字ではなく「これを選ぶか、それとも他のものを選ぶか」という判断の積み重ねだ、と吾輩は気づいた。あなたの身近な買い物で、この考え方が当てはまる例を挙げてみよう。

【解答例】（自由記述の例）お小遣いでお菓子を買うとき、A のお菓子と B のお菓子どちらを買うか迷うのも、限られたお金の中で「これを選ぶ」という判断の一つ。多くの人がそうした判断を積み重ねた結果として、売れ行きや値段が決まっていく。

第 3 講　ライバル揚げパン、なにするものぞ　―競争とイノベーション―

ねらい　競争は勝ち負けだけでなく、選ばれるための工夫（改善・イノベーション）を引き出す仕組みであることに気づく。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「カレーと揚げパン、どちらか一方しか給食に出せないとしたら？」と挙手で二分します。

・問い 1 は、気持ちの変化を「動揺→気づき→共存」の三段階で整理させます。

・問い 2 の改善案を出し合い、「誰にとっての改善か（選ぶ人＝食べる人）」を確認します。

・ご飯粒の「負ける側の話も、いずれしよう」を取り上げ、競争の影の面を予告として残します。この予告は第 8 講の終わり（商店街のパン屋の話）で回収されますので、問い 3 の記述は第 8 講まで手元に残させてください。

発展課題（任意）　コンビニやファストフードの「選ばれるための工夫」を一つ探し、消費者にとっての効果を考える。

■ 学びの解説

第 3 講では、「ライバルがいると、カレーはどうなる？」という話をしました。経済学では、競争やイノベーションという言葉につながっていきます。シュンペーターの名前を思い出す人もいるかもしれません。

最近の物価高のなかで、コンビニやファストフードの会社がどんな工夫と努力をして競争に勝とうとしているか、それが消費者にとってどんな効果をもたらすか、探してみてください。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】希少性・機会費用：**「どっちかしか給食に出せないとなったら」「予算には限りがある」というアカリの言葉。カレーを選べば揚げパンは出せません。

・**【概念】効率と公正：**ケンジは「負けたくないから、みんな頑張る」と、競争が工夫を引き出す面（効率）を見ています。ご飯粒の「負ける側の話も、いずれしよう」は、公正の視点への入口であり、第 8 講で回収されます。

・**【基盤】A 市場：**競争。選ぶ人の気持ちをめぐって競い合い、選ばれ続けるために改善します。

・【基盤】（補足）競争のルールや消費者保護といった制度の話は、この物語には出てきません。扱う場合は教師が補ってください。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① ア（揚げパン）　② 選ばれ　③ イ（負けたくないから、みんな頑張るから）　／　経済クイズ　① エ（競争）　② イ（商品やサービスがよくなる）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　カレーにとっての「ライバル」である揚げパンが登場したことで、吾輩の気持ちはどう変化していっただろうか。物語の流れに沿って説明しよう。

【解答例】最初は「敵」のように感じて動揺し、危機感を抱いたが、ケンジの「ライバルがいるから、みんな頑張る」という言葉を聞いて、競争が工夫を引き出す仕掛けでもあると気づき、最後には共存を心に決めた。

問 2　ご飯粒は「負けても、そのうち改善すれば選ばれるかもしれない」と言った。もし、あなたがカレーだったら、揚げパンに選ばれ続けるためにどんな「改善」をするだろうか。

【解答例】（自由記述の例）辛さの種類を増やす、具材を工夫する、盛り付けを変えるなど、選ぶ人（生徒）の気持ちに応える工夫をする。

問 3　「競争にはいいことばかりじゃない面もある」とご飯粒は最後に言っている。競争には、良い面だけでなく、どんな難しい面があると思うか、あなたの考えを書こう。

【解答例】（自由記述の例）競争に負け続けたものは、選ばれなくなって仕事や収入を失うかもしれない。工夫する体力や資

金がない小さなお店は、大きな会社との競争に勝てず、姿を消してしまうこともある。

第 4 講　なに？道路が有料だって？　―公共財とフリーライダー―

ねらい　みんなが使うがお金を取りにくいもの（公共財）は、みんなで負担する仕組みで支えられていること、ただ乗りの問題があることを理解する。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「今朝、登校するまでに使ったもののうち、お金を払わずに使ったものは何？」

・冒頭の場面（道路工事で牛乳のトラックが遅れる）は、第 1 講のトラックと第 2 講の値段の話を受けています。ケンジの「パンには値段がついてるけど、道路に値札なんて見たことない」を取り上げ、値段のつくものとつかないものの違いに目を向けさせます。

・問い 1 で「みんなで少しずつ負担する仕組み＝税」につなげます（第 5 講の予告）。

・問い 3 の救急車有料化は、良いこと・困ったことの両方を必ず書かせます。ケンジ（効率）とアカリ（公平）の立場に分けて読むと整理しやすくなります。

・「公共財」「フリーライダー」の語は最後に示します。

発展課題（任意）　地域のインフラ老朽化や公共交通の路線廃止のニュースを探す。

■ 学びの解説

第 4 講では「道路が無料なのはなぜ」という、公共財にまつわる話をしました。経済学では、公共財は「誰でも使えるけれど、お金を取りにくい」という性質を持つ財・サービスと定義されています。

この公共財には弱点が二つあります。一つは、誰かがお金を出さないと使えるようにならないこと。もう一つは、お金を払わずに使う人間が出てくることです。前者は、みんなでお金を出し合う仕組み（税金）でカバーしています。後者には、ただ乗りする人（フリーライダー）に対処するため、料金をとったり制約をかけたりする仕組みがつくられています。

それでも、救急車の例のように、簡単には解決できない問題が出てくるのが公共財の特徴です。救急車の有料化も話題になっていますが、「お金が出せず救えない患者が出るのでは」という反論もあり、今のところ無料が続いています。どこまでこの仕組みを維持できるか、悩ましいところです。

また、道路や上下水道などインフラの老朽化とその対応、鉄道など公共交通路線の廃止問題など、維持管理の問題はこれからの日本にとって非常に重要な課題です。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】つながり：**道路も救急車も、「みんなで少しずつ負担する仕組み」があるから存在しています。中学生は払っていなくても 119 番で救急車を呼べる、というケンジの気づきも、世代をこえたつながりを示しています。

・**【概念】信頼：**ご飯粒の「使いたいけど、お金は払いたくない、とみんなが思ったらどうなるだろうね」という問い。ほかの人も負担してくれると信じられなければ、この仕組みは成り立ちません。

・**【概念】効率と公正：**救急車が「タダだから気軽にたのむ」ことへのケンジの疑い（効率）と、アカリの「必要な時にだれでも使えるのは大事」（公正）。

・**【基盤】B インフラ：**道路、信号。冒頭では、道路工事のために牛乳のトラックが遅れ、給食が遅れます。インフラが止まると市場の物流も止まる、という基盤どうしのつながりが見える場面です。

・**【基盤】C 生活：**救急車（安全・健康）。

・**【基盤】D 制度：**税。みんなで負担する仕組みそのもの。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（校門の前の道路工事）② 少しずつ　③ ウ（救急車）　／　経済クイズ　① ウ（公共財）　② イ（税

金） ③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1 道路や救急車は、誰が買ったわけでもないのに、なぜ「消えずに存在している」のだろうか。物語の中のご飯粒の説明を使って答えよう。

【解答例】税金という形で、みんなが少しずつお金を出し合う仕組みがあるから。誰か一人が大金を出すのではなく、みんなで負担することで、道路や救急車のようなみんなが使うものを維持できている。

問 2 「みんなのもの、と言えばいいのかな」というご飯粒の答えに、吾輩は「誰でもないということと同じではないのか」と疑問を持った。この疑問は、公共財のどんな性質を言い当てているだろうか。

【解答例】公共財は「誰でも使えるけれど、お金を取りにくい」という性質を持つため、特定の持ち主がいるようで、実ははっきりした持ち主がいないように見えるという、公共財ならではのわかりにくさを言い当てている。

問 3 救急車がタダだから気軽に呼ぶ人が増えているかもしれない、という会話があった。もし救急車が有料になったら、どんな良いこと・困ったことが起きるだろうか。

【解答例】（自由記述の例）良い点：不要不急の利用が減り、本当に必要な人がすぐ使えるようになるかもしれない。困った点：お金が払えない人が、必要なときでも呼べなくなってしまうおそれがある。

第 5 講　みんなで出したお金、どう使う？　―税とその使いみち―

ねらい　税はみんなで使うものの元手であり、その使い道を決めることは「何かを選び、何かを諦める」ことだと理解する。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　物語と同じ問い「あなたが市長なら、一億円をどう使う？」を読む前に投げ、直感で一つ選ばせます。

・問い 2 の「選んだ以上、何かを諦めた」を、第 2 講の「百円で何を買うか」の話と結びつけます（トレードオフ・機会費用）。

・冒頭の場面（救急車は増えたのに、公園のブランコは使用禁止のまま）は、第 4 講の「みんなで出し合う」から、この講の「集めたお金をどう使うか」への橋渡しです。ケンジの「どっちを先にするか、誰が決めてるんだ」が、この講全体の問いになっています。

・問い 3 は理由を必ず書かせ、4 人程度で交流します。「選ばなかったもの」も言わせると問い 2 とつながります。

・中学生も消費税を負担する納税者であること、使い道を最終的に決めるのは議会とそれを選ぶ有権者であることを、解説で補います。

発展課題（任意）　自分の市区町村の予算の使い道を調べ、自分の案と比べる。

■ 学びの解説

第 5 講では「税金」が登場しました。「税金」というと「取られるもの」「嫌な感じ」と思う人が多いでしょう。たしかに江戸時代の年貢のように、搾り取られる歴史もありました。

でも今の社会では、第 4 講で見たように「みんなで使う財やサービスを供給・維持するための元手」であり、納めた税が自分たちの生活の維持に使われていると知れば、その重要性が少しは理解できるかもしれません。税の仕組みは、間接税・直接税、国税・地方税の区別、累進課税のメリット・デメリットなど複雑ですが、物語のケンジとアカリも消費税を負担している点で、立派な納税者です。

税をどう使うか――国レベルでは政府が予算をたて、国会の承認を得て使い道が決まります。今の日本では、税の使い方を最終的に決めるのは国会議員であり、その国会議員を選ぶのは私たち国民です。つまり、ケンジもアカリも 18 歳になれば、税の使い道を決める一人になります。これは、すごいことです。

読者諸君はどう考えるでしょうか。ケンジやアカリ、あるいはカレーやご飯粒になったつもりで、頭の中で対話をしながら、自分なりの答えを出してみてください。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】希少性：**道路、公園、図書館、防災、学校、給食。全部に使いたいが「一億円では足りません」。

・**【概念】機会費用：**先生の「選んだ以上、何かを諦めたことにもなります」。冒頭の「救急車は買えるのに、ブランコは直せないのか」も、同じことを生活の場面で示しています。

・**【概念】効率と公正：**ケンジの「全部ちょっとずつ」は、一見公平だが、どれも中途半端になるおそれがあります。ケンジは道路の安全を、アカリは毎日みんなが使う給食の設備を優先し、大事にするものの違いが表れます。

・**【基盤】D 制度：**税と財政。使い道は市長が勝手に決めるのではなく、議会の承認が要ります。

・**【基盤】B インフラ・C 生活：**税の使い道として、道路や公園（B）、防災・学校・給食（C）が並ぶ。制度が、ほかの基盤を支えていることが分かります。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① 市長　② ア（公園のブランコ）　③ 諦めた　／　経済クイズ　① エ（消費税）　② ア（トレードオフ）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1 「あなたが市長なら、一億円をどう使う？」という問いに、ケンジは「全部ちょっとずつ」と答えたが、先生は満足していなさそうだった。この案には、どんな弱点があるだろうか。

【解答例】お金を全部の分野に少しずつ分けると、どれも中途半端になってしまい、結局どの問題もしっかり解決できないおそれがあるという弱点。

問 2 「正解は一つではありません。でも、選んだ以上、何かを諦めたことにもなります」という先生の言葉は、どういうことを意味しているだろうか。

【解答例】限られたお金（資源）は、あるものに使えば別のものには使えない。何かを選ぶということは、同時に別の何かをあきらめるということでもある、というトレードオフの考え方を表している。

問 3 アカリは給食の設備を、ケンジは道路を優先すべきだと主張した。もしあなたが市長だったら、一億円をどこに、どんな理由で使うか書いてみよう。

【解答例】（自由記述の例）防災に優先的に使う。災害はいつ起きるかわからず、命に関わる問題だから、他の予算より優先度が高いと考える。

第 6 講　吾輩を作る人が足りないって？　―労働市場と人手不足―

ねらい　働くことの意味の多様さと、人手不足・外国人労働者という労働をめぐる現在の課題に目を向ける。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「人はなぜ働くのだろう。理由を三つ挙げてみよう」

・問い 1 では、出てきた理由を「お金」「やりがい」「誰かの役に立つ」などに分類します。

・冒頭の給食室の場面（三人の仕事を二人でこなす調理員さん）は、吾輩が「人はなぜ働くんだ」と考え始めるきっかけであり、後半の人手不足の話の伏線でもあります。問い 2 では、この場面に戻って考えさせるとよいでしょう。

・問い 2 は労働市場の需供で説明させるが、供給されるのは人であり、人格も人権もある点が他の市場と違うことを押さえます。

・問い 3 は意見が分かれやすい問いです。特定の立場に導かず、アカリの言葉に込められた考え方を読み取ることに焦点を置きます。外国につながる生徒が教室にいる場合の配慮も忘れないようにしてください。

発展課題（任意）　職場体験と結びつけ、身近な大人に「働く理由」をインタビューする。

■ 学びの解説

第 6 講は、「働くこと」に注目して、働く意味や人手不足について考えました。ここには 3 つの論点があります。

一つ目は、働くことの意味とは何かというもの。誰かの役に立つのが嬉しいというアカリの父に対して、吾輩は自分の役に立つこととは何だろうと悩みます。読者諸君は、吾輩の悩みにどう答えるでしょうか。

二つ目は、調理員さんの人手不足の話。これは労働市場の話になります。労働市場は、市場という名の通り、他の市場と同じく需要と供給で調節されます。ただし、この市場は特殊です。市場に供給されるもの、供給する側のものが、人間（労働力）だからです。人間はほかのモノやサービスと違い、人格があり、当然人権もあります。簡単には売り買いできません。人手不足とは、雇いたいという需要に対して、働いてもよいという人間の供給が足りないことを意味します。高校生の場合は、アルバイト経験から考えさせるとよいでしょう。

三つ目は、現在日本で進行している外国人労働者問題です。今の日本には、約 200 万人の外国人労働者が働いています。この人たちの労働条件や処遇をどうするか、もっと受け入れるべきか、それともこのあたりで止めておくか、少子化の問題も絡んで論争になっています。ここで簡単な答えは出しませんが、日々地域で働いている外国人の人たちのことを、まず知ることから始めてみましょう。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】分業と交換：**農家、運転手、調理員さん。働くことは、第 1 講で見た分業に自分も加わることです。アカリの父の「誰かの役に立つのが嬉しい」も、ここにつながります。

・**【概念】つながり：**冒頭で、調理員さんが一人休むと給食室は三人分の仕事を二人でこなすことになります。「調理員さんがいなくなったら、自分は生まれない」という吾輩の不安は、つながりの裏返しです。

・**【概念】効率と公正：**人手不足を外国から来た人の力で補う（効率）という見方に、アカリは「働く人である前に、ここで暮らす人たち」と公正の視点を重ねます。

・**【基盤】A 市場：**雇用。仕事はあるのに働く人が見つからない、という労働市場の話。

・**【基盤】C 生活：**働く人にも、休むことや病気になることがあります。最後の「そうなったとき、どうするんだ」が第 7 講の社会保障への橋渡しになります。

・【基盤】（補足）労働法など、働く人を守る制度は物語に出てきません。扱う場合は教師が補ってください。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（調理員さんが一人休みだった）　② 役に立つ　③ イ（子どもの数が減っているから）　／　経済クイズ　① ウ

（労働市場）　② イ（雇いたい数より、働ける人が少ない）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　アカリの父は「大変だけど、誰かの役に立つのが嬉しい」と話していた。吾輩はこの話を聞いて、働く理由についてどんなことに気づいただろうか。**【解答例】**働く理由はお金のためだけではなく、人によって違うということ。誰かの役に立つ喜びなど、お金以外の理由で働いている人もいると気づいた。

問 2　調理員さんの人手不足は、なぜ起きていると物語では説明されていただろうか。労働市場という言葉を使って説明しよう。**【解答例】**子どもの数が減っているなど、働く人そのものが少なくなっていることが大きな理由。労働市場では、雇いたいという需要に対して、働いてもよいという人間の供給が足りなくなっている。

問 3　外国から来て働く人が増えていることについて、アカリは「働く人である前に、ここで暮らす人たちなんだよ」と言った。この言葉には、どんな考え方が込められているだろうか。**【解答例】**単に人手不足を埋める労働力としてだけ見るのではなく、同じ地域で共に暮らす一人の人間として尊重すべきだ、という考え方。

第 7 講　吾輩は遠くになんか行きたくないぞ　―限られた資源の配分と社会保障―

ねらい　限られたお金と人手をどう配分するかという問題が、給食から社会保障・インフラまで共通していることに気づく。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問「自分の学校の給食（昼食）は、どこで、誰が作っているか知っている？」

・問い 1 は、二人が大事にしたものを板書で対比します。ケンジ＝費用・人手・困る人の数（効率）、アカリ＝遠い学校やアレルギーのある子へのしわ寄せ（公平）。

・ケンジの「同じ献立なら公平だろ」に対し、アカリは「同じものが届くことと、みんなが同じように食べられることは違う」と返します。「同じに扱うこと」と「公平であること」は同じか、と問い返すと議論が深まります。どちらかを正解にせず、両方を満たす案（例：センター化しつつアレルギー対応の体制を残す）を考えさせてもよいでしょう。

・問い 2 では第 5 講のシートを見返させます。ご飯粒の「何度も出てくるのには、理由がある」に注目。

・問い 3 は地域の例が出にくいので、バス路線、学校の統廃合、病院、図書館などを例示します。

・病気・けが・老いは「みんなに関係のある話」であることから、社会保障の支え合いにつなげます。

発展課題（任意）　地域の公共施設の統廃合をめぐる議論を調べる。

■ 学びの解説

第 7 講では、学校の調理室を給食センターに統合する問題が登場しました。これは、第 5 講で取り上げた「税」の使い道と同じ構造の問題、すなわち限られた財源（経済的資源）をどう分配し、優先順位をどう決めるかという問題です。

アカリは対話の中で、給食の問題が、医療や介護や年金といった社会保障に関わる問題と同じ構造を持つこと、さらに道路、交通、電気、ガス、上下水道、情報システムといった、私たちの生活を支える各種インフラ（ライフライン）にも同じ構造があることに気づきました。

ケンジは「同じお金でいちばんたくさんのことができる方」を選ぼうとし、アカリは「誰かだけが我慢することにならないか」を確かめようとしました。前者は効率、後者は公平の考え方です。どちらか一方だけでは決められないところに、この種の問題の難しさがあります。

読者の街や地域で、公共機関やインフラの廃止・統合をめぐる問題が出ていないか、注意を払ってみてください。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】希少性：**設備は古く、調理員さんも足りません。ご飯粒の「限られたお金と人手の中で、何を大事にするか、選ぶしかない」。

・**【概念】機会費用：**学校ごとに調理室を直せば、そのお金は道路や図書館には回せません。吾輩の「またその話か」は、第 5 講と同じ構造であることを示しています。

・**【概念】効率と公正：**この講の中心。ケンジは「同じお金でいちばんたくさんのことができる方」を選び（効率）、アカリは「誰かだけが我慢することにならないか」を確かめようとします（公正）。「同じ献立なら公平か」というやりとりは、同じに扱うことと公正であることの違いを考える材料になります。

・**【概念】つながり：**病気、怪我、老いは「特別な誰かの話ではなく、みんなに関係のある話」。支え合いとしての社会保障。

・**【基盤】C 生活：**給食（教育・健康）と、医療・介護・年金（社会保障）。

・**【基盤】D 制度：**市が検討し、限られた財源をどこに使うかを決めます。

・【基盤】（補足）調理室や給食センターという設備は、暮らしを支える土台という意味でインフラに近いといえます。吾輩が窓の外に見る道路、公園、学校、病院も同じです。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① 給食調理　② イ（一つにまとめた方が安くすむから）　③ 年金　／　経済クイズ　① イ（社会保障）　② エ（資源の配分）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　給食調理を学校で続けるか、給食センターに統合するか。ケンジとアカリは、それぞれどんな理由でどちらを選んだだろうか。

【解答例】ケンジは給食センターを選んだ。一つにまとめた方が安くすみ、少ない人数でたくさん作れて、浮いたお金をほかに回せるからで、同じお金でできるだけ多くのことをすること（効率）を大事にしている。アカリは学校調理を選んだ。遠い学校は冷めてしまうことや、アレルギーのある子に合わせられるかを心配していて、誰かだけが我慢することにならないこと（公平）を大事にしている。どちらにも理由があり、簡単には決められない。

問 2　ご飯粒は「限られたお金と人手の中で、何を大事にするか、選ぶしかない」と言った。この考え方は、第 5 講のどんな話とつながっているだろうか。

【解答例】第 5 講の「一億円をどう使うか」という税金の使い道の話と同じ構造で、限られた資源（お金や人手）をどう配分し、優先順位をどう決めるかという問題である。

問 3　アカリは、給食の問題が医療や介護、年金といった社会保障の問題や、道路・電気・水道などのインフラの問題とも同じ構造を持つことに気づいた。あなたの身近な地域で、同じような「限られた資源をどう配分するか」という問題を一つ探して書いてみよう。

【解答例】（自由記述の例）地域のバスの本数が減らされ、便利さと運行にかかる費用（人手や燃料代）のどちらを優先するかが問題になっている、など。

第 8 講　吾輩は会社を創るぞ！　―株式会社と起業―

ねらい　会社はやる気だけでは作れず、仲間・資金・事業計画が必要であること、株式は資金を集める仕組みであることをつかむ。あわせて、競争に負けた側に何が起きるか、それを支える仕組みがなぜ必要かを考える。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「知っている会社の名前を 30 秒で書けるだけ書こう」→「その会社は最初、どうやってお金を集めたのだろう？」

・冒頭は第 6 講で予告された職場体験の報告です。ケンジが行ったパン工場（株式会社・約百人）と、アカリが行った商店街のパン屋（夫婦二人）を対比させると、「会社とは何か」の問いに入りやすくなります。揚げパンがその工場で作られていたことが、吾輩が会社を作ろうとする動機になっています。

・問い 1 で、吾輩株式会社に足りなかったもの（人・お金・計画）を挙げさせます。

・問い 2 の「みんなで少しずつ出す」は第 4 講・第 5 講の税と形が似ています。ただし株は、自分の意思で出し、見返りを期待する点が違うことを確認します。

・「信用」は、将来への期待のことです。株式会社の細かい制度は深追いしません。

・問い 3（今回差し替えた問い）は、第 3 講で予告した「負ける側の話」の回収です。第 3 講のシート問 3 を見返させ、当時の自分の予想と比べさせます。吾輩株式会社は「競争する前に倒れた」のであり、長年選ばれてきたのに負けたパン屋とは違う、というご飯粒の区別も押さえます。

・「負けた人を放っておかない仕組み」は、第 7 講の社会保障とつながります（失業したときの雇用保険など）。支える仕組みがあるからこそ安心して競争に挑める、という市場と政府の関係に気づかせたいところです。

発展課題（任意）　吾輩株式会社の事業計画を立て直す（何を、誰に売るのか）。

■ 学びの解説

第 8 講では「企業」が登場します。カレーが「吾輩株式会社」を設立しようとしますが、仲間もお金も事業計画もなく、数分で倒産します。会社は「やる気」だけでは作れず、仲間や資金を集める仕組み（株式）が必要だと学びます。ここでは、株式会社の概略がつかめれば十分です。

この講の終わりでは、第 3 講で予告した「負ける側の話」も登場します。商店街のパン屋は、長年お客さんに選ばれてきたのに、大きなスーパーとの競争に負けて店を閉めます。競争は安くて良いものを生みますが、選ばれた側の裏には必ず選ばれなかった側がいます。仕事を失った人が次の仕事を見つけるまでの暮らしを支える仕組み（雇用保険などの社会保障）があるから、人は安心して競争に挑むことができます。競争と支え合いは、対立するものではなく、組み合わせて使うものだと気づいてもらえれば十分です。

今、若者の間で起業が盛んですが、「千三つ」と言われるほど事業を持続させるのは難しいものです。それでも、自分の夢を形にするチャレンジは素晴らしいことです。読者諸君には、形にしたい夢や目標、あるいは投資してみたい会社はあるでしょうか。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】分業と交換：**作るのも運ぶのもお金を出すのも「吾輩」では、会社は成り立ちません。パン工場には、焼く人、運ぶ人、売りに行く人がいます。

・**【概念】信頼：**ご飯粒の言う「信用」。出資してくれる人が、会社の将来を信じてくれなければお金は集まりません。そのために事業計画が要ります。

・**【概念】効率と公正：**競争は安くておいしいパンを生む（効率）が、選ばれた側の裏には、長年選ばれてきたのに店を閉める商店街のパン屋がいます。「負けた人を放っておかない仕組みがあるから、人は安心して競争に挑める」は、効率と公正の両立を目指す言葉です。

・**【概念】つながり：**店がなくなると、働いていた人も、歩いて買いに行けたお年寄りも困ります。

・**【基盤】A 市場：**企業、競争、雇用。

・**【基盤】D 制度：**株式会社という、出資を集めるための仕組み。

・**【基盤】C 生活：**仕事を失った人の暮らしを、次が見つかるまで支える仕組み（社会保障）。市場での競争を、生活の基盤が下から支えていることが見えます。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（揚げパン）　② 出資　③ イ（数分で倒産した）　／　経済クイズ　① ウ（株式会社）　② ア（起業）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　「吾輩株式会社」は、なぜわずか数分で倒産してしまったのだろうか。物語の中から理由を挙げよう。

【解答例】社員が吾輩一人しかおらず、事業計画もなく、資本金もゼロ円だったから。会社は「やる気」だけでは作れず、仲間や資金を集める仕組みが必要だと分かる。

問 2　アカリは「株ってあるんじゃない？　会社に出資してくれる人を集める仕組み」と言った。株式会社という仕組みは、一人ではできないことを、どのように可能にしているだろうか。

【解答例】多くの人からお金を少しずつ出資してもらうことで、一人では用意できない大きな資金を集め、大きな工場やトラックなど、大きな事業を始めることができるようにしている。

問 3　ご飯粒は、第 3 講で予告した「負ける側の話」をした。競争に負けて店がなくなると、だれが、どのように困るだろうか。また、ご飯粒の言う「負けた人を放っておかない仕組み」は、なぜ必要なのだろうか。

【解答例】（自由記述の例）店の人は収入を失い、働いていた人は仕事を失う。そのパンが好きだったお客さんや、歩いて買いに行けたお年寄りも困る。競争に負けることは誰にでも起こりうるので、次の仕事が見つかるまで暮らしを支える仕組みが必要になる。そういう仕組みがあるから、失敗をおそれずに新しい店や会社に挑戦できる。

第 9 講　金がなければ何も出来ない ―銀行と金融の仕組み―

ねらい　銀行が預ける人と借りる人の橋渡しをしていること、利子・担保の意味を理解する。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　「銀行に預けたお年玉は、預けている間、どこにあると思う？」

・問い 1 は「預ける人→銀行→借りる人」の流れを図で板書します。

・利子は「使えない間のお礼」、担保は「返せなかったときの保証」という物語の表現をそのまま使います。

・最後に第 8 講と対比し、株式（直接金融）と銀行（間接金融）の違いを整理します。

・問い 3 では、二度の失敗に共通する原因（事業計画の不在）に気づかせます。

発展課題（任意）　家計・企業・政府のうち、誰が貸し手で誰が借り手かを考える（資金循環へ）。

■ 学びの解説

第 9 講では「銀行」と「金融」の世界が登場します。懲りずにもう一度起業しようとする吾輩は、銀行が「お金を預ける人と借りたい人の橋渡し役」だと知ります。利子や担保の意味を学びますが、今回も事業計画なしで、また倒産します。ここでは、銀行の役割と金融の意味がつかめれば上出来です。

重要なのは、株式（直接金融）と銀行（間接金融）の違いです。この違いを知っておくと、テストや受験にも役立ちます。さて、諸君はどれくらい預金を持っているでしょうか。そのお金が社会でどう使われていくのか、関心を持ってもらえたら嬉しく思います。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】信頼：**この講の中心。預ける人は銀行を信じてお金を預け、銀行は返してもらえると信じられる相手に貸します。担保と事業計画は、その信頼を形にするものです。吾輩が二度とも断られるのは、信頼の材料を何も示せなかったからです。

・**【概念】つながり：**お金を「貯める人」と「借りる人」を銀行がつなぎます。

・**【概念】機会費用：**利子は「返ってくるまで、そのお金は使えない」ことへのお礼。貸している間、自分で使うことをあきらめています。

・**【基盤】A 市場：**お金を貸し借りする場としての金融。

・**【基盤】B インフラ：**預金や貸し出しなど、お金の流れを支える銀行の仕組みは、経済全体の土台でもあります。

・**【基盤】D 制度：**担保のように、約束が守られなかったときの取り決め（契約）。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① 銀行　② イ（お礼みたいなもの）　③ 担保　／　経済クイズ　① イ（金融）　② エ（利子）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　銀行は、どのような役割を果たしていると物語では説明されていただろうか。

【解答例】使わないお金を預ける人と、お金を借りたい人との「橋渡し役」を果たしている。預かったお金を、必要としている人に貸し出す仕組み。

問 2　吾輩は「吾輩自身を担保にする」と言ったが、ご飯粒に「食べられて終わり」だと指摘された。担保とは何か、この会話から説明しよう。

【解答例】担保とは、借りたお金を返せなかったときのための保証として差し出すもの。吾輩自身を担保にすると、返済できなければ吾輩（担保）が失われてしまうことになる。

問 3　吾輩株式会社は、二度目も「何を作るか決まっていない」という理由で資金を集められなかった。会社がお金を集めるために、資本金や借金以外に、まず何が必要だと物語は教えてくれているだろうか。

【解答例】何のために、何をする会社なのかという事業計画。お金だけあっても、目的や計画がなければ、誰も投資したり貸した

りしてくれないということ。

第 10 講　吾輩は世界のカレーである ―国際経済へ―

ねらい　一皿のカレーが、貿易・為替・人の移動を通じて世界とつながっていることに気づく。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問「カレーの材料のうち、外国から来ているものはどれだろう？」

・問い 2 は「円安→輸入品が高くなる→作る費用が上がる→値段」の順に矢印でつながせます。円高・円安は「一万円で買える外国の商品の量」で説明すれば十分です。

・問い 3（追加した問い）で、第 1 講の分業と国際分業を重ねます。比較優位は語の紹介にとどめます。

・ケンジの発言から第 6 講（外国から来て働く人）とも結びます。モノだけでなく人も世界とつながっています。

発展課題（任意）　家にある食品の原産国を調べ、地図に書き込む。

■ 学びの解説

第 10 講では「国際経済」を取り上げました。カレーが日本発祥ではなくインド発祥だと知って驚く場面から、円高・円安による輸入品価格の変化、国同士が得意分野を活かして交換し合う仕組み（国際分業・比較優位）を学びました。

為替や貿易は難しく見えますが、円安・円高は輸入食品やガソリン代などを通して、私たちの生活に直結しています。比較優位の考え方も、スポーツのポジション配置や勉強の得意・不得意、将来の職業選択など、人生のあらゆる場面で活用できる視点です。「もし今後さらに円安が進んだら、我が家の食卓や身近なカレーの値段にどんな影響があるか」を考えてみると、より理解が深まるでしょう。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】分業と交換：**「日本が得意なもの、外国が得意なもの、お互いに交換した方がうまくいく」。第 1 講の人と人との分業が、国と国との分業に広がります。

・**【概念】つながり：**スパイスというモノだけでなく、外国から来て働く人も含めて、一皿のカレーが世界とつながっています。円安でスパイスが高くなるという話は、遠い国の出来事が給食に届くつながりを示しています。

・**【基盤】A 市場：**貿易、為替、輸入品の価格。

・**【基盤】C 生活：**外国から来て働く人（第 6 講の「ここで暮らす人たち」）。

・【基盤】（補足）給食のカレーの値段が「急には変わらない」のは、給食が市場だけでなく制度に支えられているからです。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① イ（インド）　② イ（円安）　③ 世界　／　経済クイズ　① イ（高くなる）　② ウ（国際分業）　③ 自由記述

■ 振り返りの問いと解答例

問 1　カレーのルーツはインドであり、スパイスの多くは海外から来ていると知って、吾輩はどんな気持ちになっただろうか。また、それはなぜだろうか。

【解答例】「国際派」だと誇らしい気持ちになった。自分の中に日本だけでなく世界とのつながりが含まれていることに気づいたから。

問 2　「円安になると輸入品が高くなる」という会話があった。もし円安がさらに進んだら、身近なカレーの値段にどんな影響があるか、考えてみよう。

【解答例】（自由記述の例）スパイスなど海外から輸入している材料の値段が上がり、それにともなってカレーを作るコストが上がるため、外食や商品としてのカレーの値段が上がる可能性がある。

問 3（追加） ご飯粒は「君は給食のカレーだ。でも君の中には、世界が入っているんだよ」と言った。吾輩が思い出した第 1 講の「協力」の話と、国と国との関係は、どこが似ているだろうか。

【解答例】一人で全部やるより、得意なことを分担した方がうまくいくのと同じように、国と国も、それぞれが得意なものを作って交換し合った方がうまくいく（国際分業）。スパイスのようなモノだけでなく、働く人も世界とつながっていて、その結果として一皿のカレーができている。

終章　吾輩は少し賢くなったカレーである　―経済とは、何だったのか―

ねらい　物語全体を振り返り、「経済とは何か」を自分の言葉で表現する。

■ 授業の手順（この講のポイント）

導入の発問　第 1 講からのシートを並べ、吾輩の旅を一講一文で振り返ります。

・問い 1 は、一番印象に残った講を挙手で集計すると、クラスの関心が見えます。

・問い 2 は「偉い」と「賢い」の違いを考える問い。第 1 講のご飯粒の言葉と呼応しています。

・問い 3 は自分の定義を書かせ、数名に発表させて、吾輩の「選ぶこと」「支え合うこと」と比べます。正解は一つではありません。

・最後に全体アンケートを記入させ、回収します。

発展課題（任意）　自分で「吾輩は○○である」の一場面を書いてみる。

■ 学びの解説

終章では、長い旅の振り返りを行いました。「経済とは何か」という問いに、カレーは「選ぶこと」「支え合うこと」と答え、お腹を減らすケンジの姿から、経済の出発点は「生きること・食べること」だと気づいてゆきます。読者諸君も、この物語で学んだ「選ぶこと」「支え合うこと」を手がかりに、吾輩に負けないくらい、少しでも賢くなってもらえたら、老ネコ先生としてこれほど嬉しいことはありません。

■ シン経済教育との対応（6 つの概念・4 つの基盤）

・**【概念】希少性・機会費用：**吾輩の最初の答え「選ぶこと」。何を食べるか、何を買うか、何を作るか、税金をどう使うか。

・**【概念】分業と交換・つながり・信頼：**次の答え「支えること」。「一人では生きられないから、協力する。働く。助け合う」。

・**【概念】効率と公正：**吾輩の答えには直接出てきませんが、序章から続くケンジとアカリの二つの見方がこれにあたります。問い 3 の交流で、生徒の言葉として引き出したいところです。

・**【基盤】四つすべて：**冒頭の吾輩の振り返りを、市場（値段、ライバル、会社）、インフラ（道路）、生活（働く人、支え合い）、制度（税）に仕分けさせると、「当たり前の毎日」が四つの基盤に支えられていることを確かめられます。

■ クイズの解答

読み取りクイズ　① 選ぶ　② イ（支えること）　③ 食べる

■ 振り返りの問いと解答例

問 1（追加）　吾輩は長い旅を振り返って、たくさんの出会いを挙げた。第 1 講から第 10 講のうち、あなたが一番印象に残った講はどれだろうか。理由も書こう。

【解答例】（自由記述の例）第 5 講。全部に使いたくてもお金は足りず、選べば何かを諦めることになる、という話が、自分のお小遣いの使い方と同じだと感じたから。

問 2（追加）　ご飯粒は最後に「偉くはなってないけど、少し賢くはなったと思うよ」と言った。第 1 講の「支えられているのと、偉いのとは別」という言葉も思い出しながら、「賢くなる」とはどういうことか考えよう。

【解答例】自分が多くの人の選択や支え合いの中にいると知り、世の中の見え方が変わること。他の人より上に立つ（偉くなる）ことではなく、当たり前に見える風景の裏にある仕組みに気づけるようになること。

問 3　終章で、吾輩は「経済とは何か」という問いに「選ぶこと」「支え合うこと」と答えた。あなたなら、この物語をふまえて、「経済とは何か」にどう答えるだろうか。

【解答例】（自由記述の例）経済とは、限られたお金やモノ、人手をどう選んで使うか、そしてそれを、たくさんの人がどうつながり合い、支え合って回しているかという仕組みのことだと思う。

Ⅳ　あとがき　舞台裏の話

ここからは、この物語の成り立ちや参考文献など、舞台裏をご紹介します。

物語ができるまで

この物語は、新井が AI と相談しながら作成したものです。最初に全体の骨組み資料を 3 つの AI（Claude、Gemini、ChatGPT）に読み込ませ、「カレーを主人公に、漱石の『吾輩ハ猫デアル』風のスタイルで全 10 話を作ってほしい」と依頼しました。

しかし、最初に出てきた試案はどれも硬く、経済学の学術的な匂いが強すぎたため、「もっと易しく、身近な経済を感じられる話にしてほしい」と再注文しました。すると ChatGPT から、中学生の会話に加えて「カレーとご飯粒が対話する」というアイデアが提示され、これが今回のベースとなりました。

大体の骨組みや会話のアイデアは AI（ChatGPT 等）に出してもらい、学校の実情や文脈に合わせて新井が少し整えたのが、今回の物語の成り立ちです。

AI と人間の関係

今回の作業を通して痛感したのは、AI の文章生成能力はもはや新井を超えているということです（吾輩風の語り口や、カレーとご飯粒のコミカルな掛け合いなど、新井一人ではとても書けませんでした）。

AI は今後も進化し続けるでしょう。しかし、「生成された物語を世に送り出す決断をし、その責任を負うのは人間である」という点において、人間と AI には決定的な違いがあります。

2023 年の夏休み前に生徒に「AI に仕事が奪われたらどうするか」と尋ねたところ、多くの答えは「人間にしかできないことを探す」でした。その具体像は、まだはっきり生徒はつかめていませんが、「主体として責任を持つ」という姿勢こそが、これからの時代を生きる一つの軸になるのではないかと感じています。

なお、本稿作成後に開催された経済教育ネットワークの 2023 年の『夏休み先生のための経済教室』で、大阪大学の大竹文雄先生の講演があり、そのなかで大竹先生が、AI の役割、影響として「代替」と「補完」があると指摘されていました。この二つの言葉、「代替」「補完」は中学では教えられることがありませんが、生徒がこれからの社会や自分の職業を考えるときに、重要な手がかりになると思われます。「吾輩」の話に AI を入れるバージョンを是非作成したいと考えています。

参考にした文献など

・清水侑季『教養としてのカレー』（集英社）――若手カレー研究家によるユニークなカレー哲学本。

・コリーン・テイラー・セン著、竹田円訳『カレーの歴史』（原書房）――写真が豊富で、西洋視点でのカレー史が学べる一冊。

・藤原辰史『給食の歴史』（岩波新書）――学校給食の背景を知るための名著。

・新井明他『経済の考え方がわかる本』（岩波ジュニア新書）――ロングセラーの入門書。経済学の背景を理解するのに最適。

・大竹文雄『思い込みの経済学』（中公新書）――大竹講演のもとになった考察がこの本の第三章にあります。

・経済教育ネットワーク HP――本物語の原型資料を掲載しています。

シン経済教育の授業案 – 経済教育ネットワーク